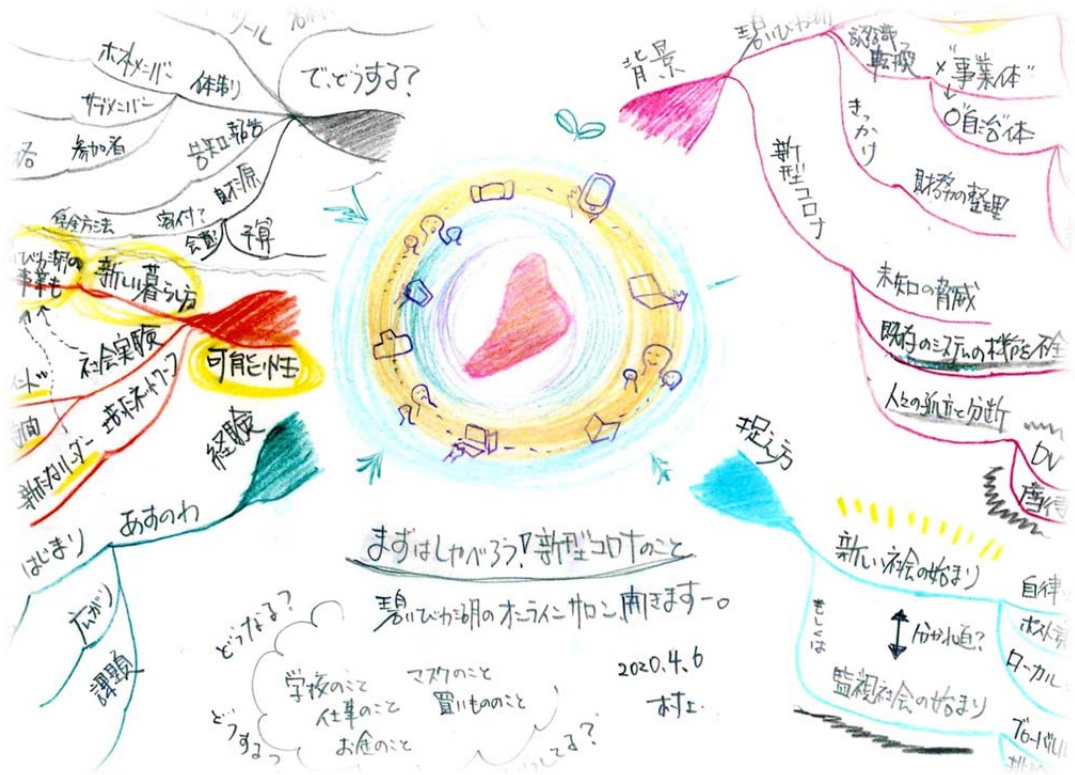


特定非営利活動法人 碧いびわ湖

年間活動レポート

2020 年版



子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

碧いびわ湖は 自分たちが望む暮らしを 力を合わせて創る場です

琵琶湖は、私たちの暮らしを映す鏡のような存在です。

40 数年前、琵琶湖の湖面が「赤潮」で赤錆色に染まったのは
時間に追われ、便利さや安さに惹かれた人々の暮らしの帰結だったと言えます。

いま琵琶湖の水は、当時より澄んできましたが
生き物たちのにぎわいは戻ってきていません。
堰や水門などが生き物たちの移動をさまたげ、
ゆりかごでもある内湖や水草帯が減ったことが大きな要因と言われています。

こうした「つながりの分断」や「次世代を育む力の弱まり」は
私たちの社会でも同じように起きていることではないでしょうか。

社会をつくるのは、私たちの日々の暮らしです。

食事、買い物、住まい、仕事、遊び…
そのあり方が、私たちと子どもたち、
そして琵琶湖の未来を決めていきます。





だから 共に変わっていきませんか
つながりを育み
子どもたちが元気に育っていける暮らしへ

あなたの参加が、力になります。
子どもと湖が笑ってる未来を、共に創る力に。



「市民自治」から”運動”と”事業”を生みだす

碧いびわ湖の活動の基盤は「市民自治」です。一人ひとりが想いを語り合い、聴き合い、理解し合って、共に考えること。その中から、社会に変化を起こす”市民運動”や、暮らしを支える”市民事業”を生みだします。そしてその事業がまた「市民自治」を継続させています。

買い物づくり	住まいづくり	地域づくり
<p>子どもたちの命と琵琶湖の水を守る生協運動を原点に、地域の有機農産物やリサイクル製品を購入する「共同購入」と、ティッシュ・ロールの原料の牛乳パックやせっけん原料の廃食用油を回収する「リサイクル」の事業を行っています。</p> 	<p>琵琶湖の水を守る合併浄化槽設置運動を原点に、環境や子育てのことを考えた「住まいづくり」の事業を行っています。無垢の木の家づくり、雨水タンク、太陽熱温水器、薪ストーブの設置工事などを行っています。ワークショップもしています。</p> 	<p>自然が豊かで子どもたちが生き生きと育つことのできる環境づくりを市民がすすめる「地域づくり事業」を行っています。ホタルが自生する川づくり(守山市)、多様な人々の琵琶湖の保全への参加促進(全県)などを行っています。</p> 
<h2>市民自治</h2>		
<p>気になっていること、やってみたいことなど、色んな思いを、互いに語り合い聴き合うことから協力を生み出す「市民自治」をしています。市民メディア「あまいろだより」の発行や、子育て中のお母さんがほっとできる場「あすもの日」などの活動もその中から始まりました。</p>		

はじまりは、琵琶湖のせっけん運動でした

1977年5月、琵琶湖の湖面が赤錆色に染まり、異臭が漂いました。プランクトンが異常繁殖する「赤潮」という現象で、原因は家庭で洗濯に使われていた有リン合成洗剤でした。生協、婦人会、労働組合などが協力して県民あげてのせっけん利用が進められ、1980年には県内で有リン合成洗剤の販売を禁じる富栄養化防止条例(びわ湖条例)が制定されました。



この運動の担い手の一つ「湖南消費生活協同組合」の中から、1989年に「滋賀県環境生活協同組合」が設立され、環境に特化した市民事業の実践と循環型の地域づくりが進められました。2009年にこの生協を組織改編したのがNPO 碧いびわ湖です。子育て世代を中心に仲間を育みながら、10年にわたって運動と事業を継続しています。

【買い物づくり】 心もつながる買い物へ

つくるひと、食べる人、運ぶひと、みんなが笑顔になれる、心の通う買い物づくりに取り組んでいます。牛乳パックをティッシュやロールに、廃食用油をせっけんという資源循環の輪も、官民の多様な主体の参加で継続しています。



牛乳パックリサイクルの学習の一環で、紙すきを体験（近江八幡市内の中学校）



株式会社平和堂のオリジナルトイレットペーパー。「集めて使うリサイクル」が実現。



中国の政策変更の影響でゆれる古紙業界にて、あらためて情報交換、価値共有を確かめ合う「関西ミルクロードの会」（総会にて）



お米を共同購入している（農）大戸洞舎（おどふらしゃ）の無農薬栽培の田んぼにコウノトリがやってきました

●「一円基金」で学習プログラム開発

みんなで集めた牛乳パックを原料にした「ただいまロール・おかえりティッシュ」の購入代金から積み立てた「一円基金」を活用し、学校での学習プログラムを開発して近江八幡市内の中学校で実施しました。紙すき体験、見学、対話などを交え、体感的に主体的に牛乳パックリサイクルを学べるプログラムができました。



平和堂近江八幡店でのパック回収も体験

●「集めて使うリサイクル」が平和堂でも！

滋賀県最大手のスーパー株式会社平和堂は、1990年から牛乳パック回収にご協力いただいています。2019年11月、平和堂で回収した牛乳パックを利用したオリジナルトイレットペーパーが新発売され「集めて使うリサイクル」が平和堂でも実現されました。代金から1巻2円が碧いびわ湖に寄付をされます。紙パックリサイクルの普及・学習活動に活用します。



12月に滋賀グリーン活動ネットワーク主催の三方よしのエコフェアでも牛乳パックリサイクルの体験を出展しました（大津市）

●農産物の共同購入を継続

農産物の共同購入を昨年度も引き続き実施しました。（農）大戸洞舎、養生農園、愛のまちエコ倶楽部では気候の影響での減収もありましたが、茗荷村同労舎、村田農産、吉田農園などにご協力いただいて供給を持続できました。京大農業ゼミの省農業みかんは大柿肇さんが就農2年目。収量がぐんと増えました。



3月に京大農業ゼミのメンバーと石田先生、大柿さんが安土までお越しくださいました。

＜数字で見る 共同購入事業の成果＞

●お米供給量	5,456kg	省農業みかん供給量	5,495kg
●粉せっけん「びわ湖」供給量	2,409kg	←●廃食用油回収量	9,072L
●液体せっけん「ゆう」供給量	1,522L		
●トイレロール「ただいまロール」等供給量	10,925袋	←●牛乳パック回収量	326,808kg
●ティッシュ「おかえりティッシュ」供給量	4,316袋		

【住まいづくり】あるもの活かしみんなで作る

身近な人々と協力し合い、身近な資源や自然の恵みを活かす暮らしのインフラとしての住まいづくりに取り組んでいます。プロの力を借りつつも、人々が主体的に参加し、協力して住まいをしつらえることに取り組んでいます。



クラウドファンディングで傷んでいた和室を改修して開設した「みんなの休憩室」。(改修前と改修後)



障害のある人も暮らす歴史ある住まいの、屋根の修繕工事を行いました（日野町）



グループホームの入浴用にソーラーシステム（太陽熱利用機器）を設置しました（近江八幡市）

●近江八幡旧市街地に「みんなの休憩室」

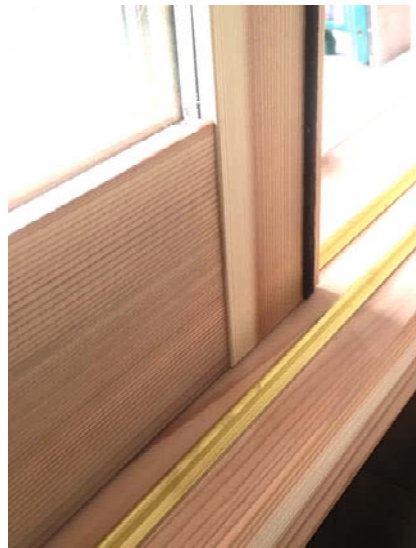
2019年5月に開店した「食堂ヤポネシア」（近江八幡旧市街地内）の奥で傷んでいた6畳間を、赤ちゃんの授乳やおむつがえなどに活用できる「みんなの休憩室」としてクラウドファンディングで整備しました。会員の発案でプロジェクトを立ち上げ、173人の方から114万円をお寄せいただき、改装費用と二年間の借り上げ費を賄うことができました。近江八幡の旧市街地を子連れで街歩きしやすい環境を整えることができました。

●古民家の修繕工事も行いました

日野町内にある元近江商人の屋敷の屋根修繕工事を請け負いました。築100年を超えているにもかかわらずとてもきれいな瓦で、部分補修だけで済みました。丁寧に人の手でつくられたものの寿命の長さを実感しました。他にも古民家の改修や維持工事を2件請け負いました。

●福祉施設での自然エネルギー設備導入

例年に引き続き、福祉施設での自然エネルギー設備の導入を行いました。近江八幡市内にあるオアシスグループホームさんに、2台のソーラーシステムを設置しました。滋賀県の分散型エネルギーシステム導入加速化事業補助金を活用し、実質1/2負担での設置ができました。もともと雨水タンクを設置したり菜園をされたりしている施設で、さらに環境に調和し、防災上の備えも向上できました。



マンションでの木製サッシの設置も行いました。冷暖房の効率がよくなりました（京都市）



22年前に設置された太陽熱温水器の修繕工事にも対応。無事に継続使用できました。（近江八幡市）

<数字で見る 住まいづくり事業の成果>

●協同型の建物整備	1件	●修繕・リフォーム	17件
●雨水タンク設置	3件	●太陽熱温水器設置	1件
●木製サッシ設置	1件		

【地域づくり】 子どもと湖が笑ってる未来へ

滋賀県内でも、古くからの村落共同体的な慣習が弱まり、個人化・流動化する状況があります。“みんな一緒”というだけでは、なかなか共に行動できなくなっています。いまの時代にあった、子育て世代のつながりづくりを！



守山市のまちなかで、親子でほたるを飛ばす！環境学習クラブ「ルシオールキッズクラブ」がスタートしました。



あおいそらと森のおうちプロジェクト（ASMO）
——お母さんが笑顔になれる居場所「あすもの日」。



野洲川にて、子どもたちが、川で遊び、学び、育つ活動。
子育て中のお父さん、お母さんたちと運営しています。

●お母さんがホッと一息つける場

碧いびわ湖と、こども園そら（草津）、ちいさいおうちようちえん（守山）、せた森のようちえん（大津・栗東）とのパートナーシップにより進めています。乳飲み子をかかえるお母さんのホッと一息つける場「あすもの日」を定期的で開催しました。



●野洲川の川守りをつなぐ

野洲川下流部、守山市中洲学区にて、川守りをつなぐ活動を継続しています。川と人、住民と行政とのつなぎ役。最近では、川遊びに加えて、河道内に生えてくる樹木の伐採や、河川敷での草サッカーもスタート。また、守山市環境学習事業づくりにも参画しています。



●科学的なアプローチで小さな自然再生

守山の中心市街地に、ほたるが自生する河川環境をつくるため、株式会社みらいもりやま21とのパートナーシップで、滋賀県立大学の瀧健太郎さんにご指導いただき「小さな自然再生」の考え方にもとづき、川遊び×サイエンス学習を軸に活動しています。滋賀県と野洲市などが共催したフォーラム「集まれ！小さな自然再生」にて活動成果発表を行いました。守山市内で長年つづく、市民によるほたる再生保全活動にも参加しています。



<おもな事業>

- マザーレイクフォーラム——創発自治プロジェクト
- 滋賀県子ども県議会
- 守山市中心市街地活性化計画（第2期）——川に学ぶプロジェクト
- 川と人、人と人をつなぐ住民コーディネーター（琵琶湖河川事務所）ほか

【市民自治】 大切なことを他人任せにしない

ただでさえ、いそがしく、せわしない毎日。そんななかでも、大切なことを他人任せにせず、力をあわせて自分たちでつくりたい。

ひとり一人、ものごとの感じ方や考え方には違いがあって当たり前。

自分のきもちをたいせつに、他者との対話をつづけながら、ともに行動します。



環境レイカーズからバトンをひきついだ「滋賀県子ども県議会」の運営業務。50人の子ども議員や、サポーター、滋賀県子ども・青少年局とともに運営に従事しました。子どもの権利条約にもとづく「子どもの意見表明権」をたいせつに、滋賀県政にも活かしていこうという取り組みです。



「マザーレイクフォーラム」の一環で、創発自治プロジェクト



手づくり市民メディア「あまいろだより」

●滋賀県子ども県議会

20年あまりにわたってつづく滋賀県子ども県議会の事業運営に、ご縁あって従事することになりました。「体験から学ぶ、たがいに学ぶ、たのしく学ぶ」という3つの「た」をキーワードに、7月から12月までのおよそ半年間の活動が行われました。

●21世紀型せっけん運動をめざして

碧いびわ湖では、琵琶湖の周りに暮らし、事業をおこなう多様な主体が参加、つながるプラットフォームである「マザーレイクフォーラム」の運営に参画してきました。これから、県民、事業者、NPO等の主体的な活動、つながりあいが、より自発的に起こっていく状況を目指して、#つながる清掃活動、BIWAKOトークカフェという活動をスタートさせました。

●手づくり市民メディア&勉強会

手づくり市民メディア「あまいろだより」が、通算41号をかぞえました。気象変動の影響とも言われる巨大な台風による大きな水害のあとの昨年12月には、Vol.40『川と暮らしとハザードマップ』(特集)を発行。また、「滋賀的 オーガニック が食べたい!」と題して、ゲスト講師を招いた勉強会を2回実施しました。

<おもな活動>

- 手づくり市民メディア「あまいろだより」Vol.38~41(年間4回)発行
- あまいろ勉強会「滋賀的 オーガニック が食べたい!」第1~2弾(2回)を開催
- お母さんがホッと一息つける場「あずもの日」を開催(9回)
- コミュニティ・オーガナイズング関西——実践報告会@京都に参加
ほか



琵琶湖アローズ



100円ショップでも売ってる
除草剤グリホサート。
ガンになるってホント?
害になる?
聞ってるのは腸内細菌と土の中の微生物...



いんやし ともや
印 鑰 智哉さん お話会

テーマ「町の中の農業—世界はどう変わろうとしているのか?」

2019年10月5日(土曜)
13:30(13:15受付開始)~16:00

場所 草津川跡地公園(区間2) ai 彩ひろば(あいさいひろば)
にぎわい活動棟「教室」



お気軽にご参加ください

→ 事業の利用で参加してみる

共同購入や住まいづくりなどの事業は、会員でない方でもご利用いただけます。リサイクルへの参加も可能です。

- 共同購入→「碧いびわ湖の共同購入」検索
- 住まいづくり→「碧いびわ湖の住まいづくり」検索
- リサイクル→お問い合わせください



▲碧いびわ湖の共同購入サイト

→ イベントに参加してみる

碧いびわ湖では、様々なイベントを企画実施しています。碧いびわ湖の Facebook ページでイベントの告知や実施報告を掲載していますので、まずは「いいね！」でフォローしてください。

- Facebook→「碧いびわ湖」検索して” いいね！”



→ 入会する、寄付をする、ボランティア活動をする

自分も運動や事業に参加したい、協力したいと思ってくださった方は、ご入会ください。会員は毎年5月に開催される会員総会にご参加いただけます。

- ・運営会員 1000 円/口・年（複数口可）議決権あり
 - ・賛助会員 3000 円/口・年（複数口可）議決権なし
- また、寄付は随時お受けしています。

ボランティアも随時ご相談に応じています。

- 入会・寄付・ボランティア→お問い合わせください



特定非営利活動法人 碧いびわ湖

電話 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 3

メール info@aoibiwako.org

H P http://aoibiwako.shiga-saku.net/

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖